

令和6年度第1回岡崎市地域包括ケア推進協議会 議事録

日 時 令和6年9月26日（木）13:30～14:45

場 所 岡崎市医師会公衆衛生センター研修室3

出席者 小出委員、加藤委員、黒谷委員、大堀委員、織田委員、山本委員、鶴田委員、
本田一恵委員、伊藤委員、土屋委員、本田智弘委員、井坂委員、小松委員、志賀委員
井戸田委員、鳥居委員、野澤委員、青山政美委員、高橋委員、青山潤子委員

欠席者 なし

事務局 福祉部：阿部田部長

ふくし相談課：齊藤課長、寺西副課長、内藤係長、早川主査

介護保険課：野々山課長、神尾副課長、渡邊係長

長寿課：中根課長、山本副課長、鈴木主幹、石原係長

国保年金課：中根主査

医療助成室：小笠原室長、川辺係長

オブザーバー 岡崎市医師会：小原監事、渡辺次長、鈴木主任

社会福祉協議会：入松川氏、兵藤氏

幸田町健康福祉部：山本部長

幸田町健康課長：相川課長

幸田町保険医療課長：築田課長、神田課長補佐

幸田町福祉課：横田課長、足立主任主査、齋藤氏、安形氏

傍聴者 なし

1 開会

2 議事

- (1) 会長の選出
- (2) 岡崎市における地域包括ケアについて
- (3) 災害時の連携について
- (4) 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施について

3

議事1 会長の選出

（委 員）拍手多数につき承認

議事2 岡崎市における地域包括ケアについて

（会 長）コミュニティケア会議の実施は、オンラインのケアマネ交流会も含めて実施され、アンケート結果では、満足、理解できたという割合が増えている。意見があればお願いしたい。

(委員) ひとり暮らしが増加していくことにより、様々な資源を活用しなければならない。認知症や免許返納により足がなくなるなども考慮しなければならない。矢作デマンドタクシーは 300 円でステーションから買い物などに行くことができるようになっている。行政として移動手段について考えてはどうか。

(事務局) 額田の下山地域では、車両をまちづくり協議会が管理して、登録している住民が運転をして送迎する試みを実施している。六ツ美地域では、チョイソコという乗り合いのタクシーを運営している。その地域に合った方法を試しながら実施してるが実際は、今すぐよりも将来的な不安を感じている方が多く、バスの利用者やチョイソコのニーズも少なく、取組とニーズがマッチしない部分もあり、難しく感じている。買い物と通院の移動手段が課題となっているのでそのあたりについては、皆様の御協力も得ながら考えていきたいと思う。

(委員) 空き家対策と移住を一体的に考えるなどはできないのか。

(事務局) コンパクトシティという考え方は岡崎市の都市計画でも考えられているが、すぐにできるものではないし、全員を市街化区域に集約するのも難しい。検討内容を注視していきたいと考えている。空き家対策を担当している住宅部局があるが、空き家にさせない、空き家をどのように除却、利活用するかということを考えているが、数多くて手が回らない一面もある。福祉部局としては、生活支援体制整備のなかで空き家を活用した取り組みをしたいと考えている。岡崎市には居住支援協議会があり、空き家活用をする機能もあるため、住宅部局と連携しながら空き家の利活用について検討したい。

(委員) 独居が増加していく中で、頼りは地域包括支援センターであるが、増員などは検討しているのか。

(事務局) 高齢者数が増加していくことは当初から見込まれていたために、地域包括支援センターの増設、人員増については早い段階から取り組んできた。ただし、医療介護人材を確保するのは難しく、地域包括支援センターは保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士の配置が基本であるが、栄養士、歯科衛生士、理学療法士などその他の専門職を採用するなど工夫しながら取り組んでいる。

(会長) 現場ではどのような現状か。

(委員) 一人暮らしの相談が増加している。衛生状態の悪いかたの対応などは、かかりつけ医との連携が重要であり、今後も協力をお願いしたい。岡崎東包括には 6 名の配置があり、現状は充足している。

議事 3 災害時の連携について

(会長) 意見をお願いしたい。

(委員) 情報連携が重要であるが、どのように考えているのか。

(事務局) いえやすネットワークの活用や拠点における情報の集約などを考えているが、

個人情報の共有の課題もあり検討が必要である。個人情報保護法について国では規定がないため、災害時の個人情報の取り扱いについて条例を定めて共有したいと考えている。

(委 員) 個人情報を閲覧できるレベルを職種ごとに設定することはできないか。いえやすネットワークを用いてどのくらい連携ができるのか。

(事務局) 情報共有方法については、引き続き検討していく。

(会 長) 要介護者、独居、施設入所者など誰がどこにいるのかどのように把握するのかはいえやすネットワークだけでは厳しいと思う。

(委 員) 入所施設、通所施設、訪問施設と様々であり、能登半島地震もあったため、事業所ごとにBCPを作成しているが不十分であると感じており、事業所間の連携はまだ検討が始まったばかりでありこれからという段階である。通所事業所としては、送迎時に被災した場合にどうするのかなど課題であり、岡崎市として高齢者、障がい者、子どもなどどのように命を守るのか、検討が必要だと考えている。

(会 長) 医師会としては医療救護所に参集することになっている。要介護者について発災してすぐに対応することは難しいと思われる。防災部局と地域BCP連絡会を新たに作って協議することになっているので、福祉介護担当者もメンバーに入ってもらい一体的に協議できるようになるといいと考えている。

議事4 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施について

(委 員) 口腔機能健診について受診状況はどうか。

(事務局) 267人という実績になっている。

(委 員) 実績が少ないように感じるので、今後も周知をお願いしたい。

(事務局) 5月に節目健診の対象者に通知をしている。8月からはフレイル該当者に通知を実施しているため、今後増加すると見込まれる。周知をしていきたい。

(委 員) 薬剤師会は、残薬整理について薬局が取り組みをしている。薬局だけではなく、短期集中サービス等などの実施時に残薬があれば相談してみるよう声かけできないか。

(事務局) 今までは講演会等の場で周知をしてきたが、今後はハイリスク者にも声かけについて協議し、実施できることは行っていきたいと考えている。

(委 員) 短期集中型サービスについて100人位待機という話も聞いたが解消されたということでもいいか。また、短期集中型サービス終了後の健康維持がどうなったか業績があれば教えてほしい。

(事務局) 昨年はかなりの待機者が出たため、今年度は新規募集で1者事業所が増加した。時間の経過とともに待機者は解消している。依然定員になっているが、10月からは新たに代替サービスとして送迎付き介護予防サービスを開始するなどに対応している。短期集中型サービスは6か月で実施する事業で、初回・中間・最終で効果測定を実施している。結果の集計は随時長寿課で行い、事業所や地域包括支援センターが参加する研

修会で共有しており、有効な結果が出ていると考えている。

(会 長) 昨年度のデータを細かく分析して、特に口腔フレイルが多いとのデータがあるので、検診の意義が変わってくると思う。口腔フレイルの対象年齢を広げるというのも一つ考え方としてあると思うがどうか。

(委 員) 口腔フレイルは、重度になってしまうと回復が難しいので、予防が重要であり、もっと若い段階から取り組むことが必要ではないか。

(事務局) 対象者については研究していく。いきなり検診ではなく、チェックリストの活用等を通いの場や老人クラブのイベント時など元気なかにアプローチをして歯科受診を促す体制を整えていきたいと考えている。